

建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

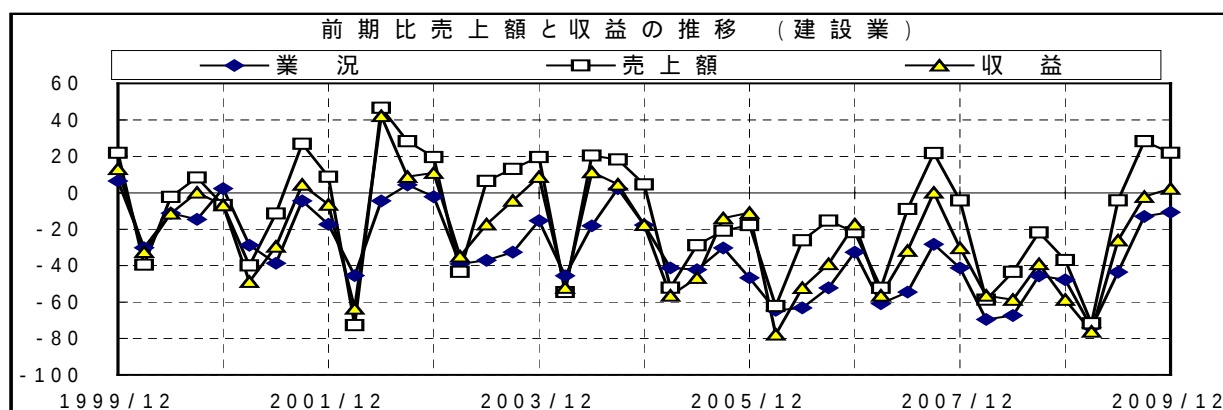
□ 景 況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業 況	-43.6	-13.0	-10.8	-52.2
売上額	-4.3	28.2	21.8	-41.3
収益	-26.2	-2.2	2.2	-43.5

今期の業況判断DI値は 10.8 と、前期比マイナス値が 2.2 ポイント縮小、3 期連続の改善となった。地区別にみると、浦河、静内、三石地区が改善し、様似地区が横ばい、えりも、広尾地区で悪化している。

売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が 21.8 と、プラス値が縮小し 6.4 ポイント低下した一方、

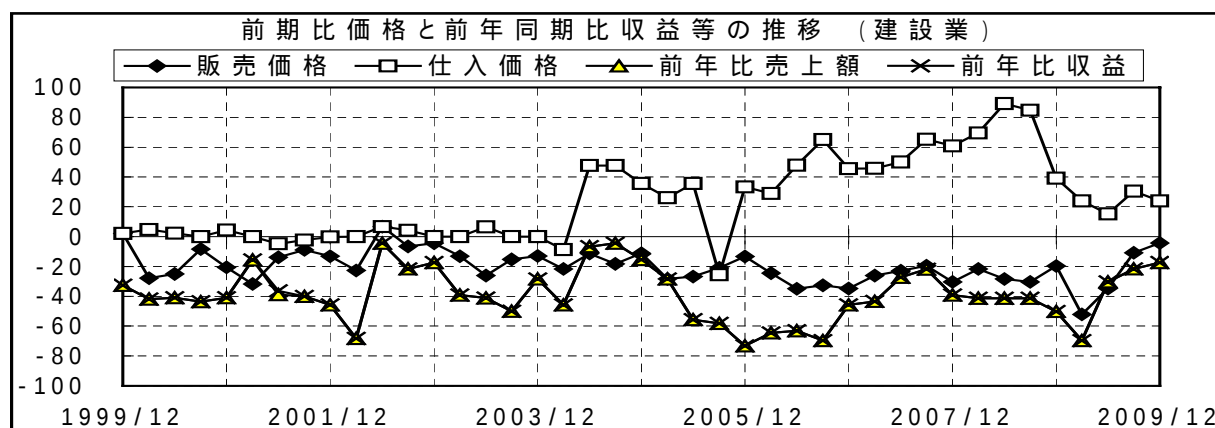
収益は 2.2 と、マイナスからプラス値に転じ 4.4 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
請負価格	-34.7	-10.9	-4.2	-17.4
仕入価格	15.2	30.5	23.9	8.7

請負価格判断DI値(4.2)は、前期比マイナス値が縮小し 6.7 ポイント上昇、価格低下基調を弱めている。一方、仕入価格判断DI値(23.9)は、前期比プラス値が縮小し 6.6 ポイント低下、価格上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	-26.0	-8.8	0.0	-32.6
人手状況	15.3	-2.1	-19.6	2.1

残業時間判断DI値は 0.0 と、残業時間が減少したとする企業割合が減り、前期比 8.8 ポイント上昇した。

人手過不足判断DI値は 19.6 と、前期比マイナス値が拡大し 17.5 ポイント低下、人手不足感を強めている。

□ 設備投資の動き

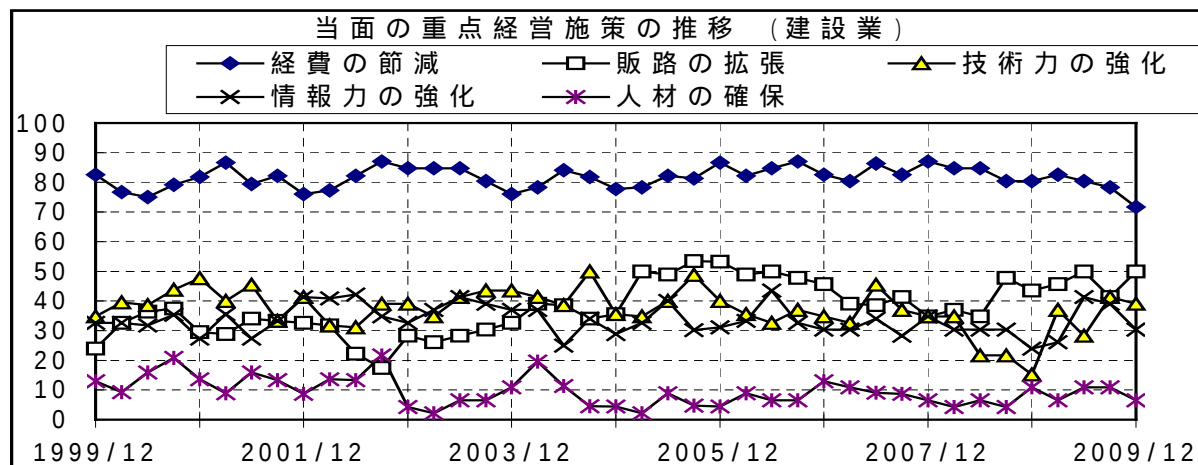
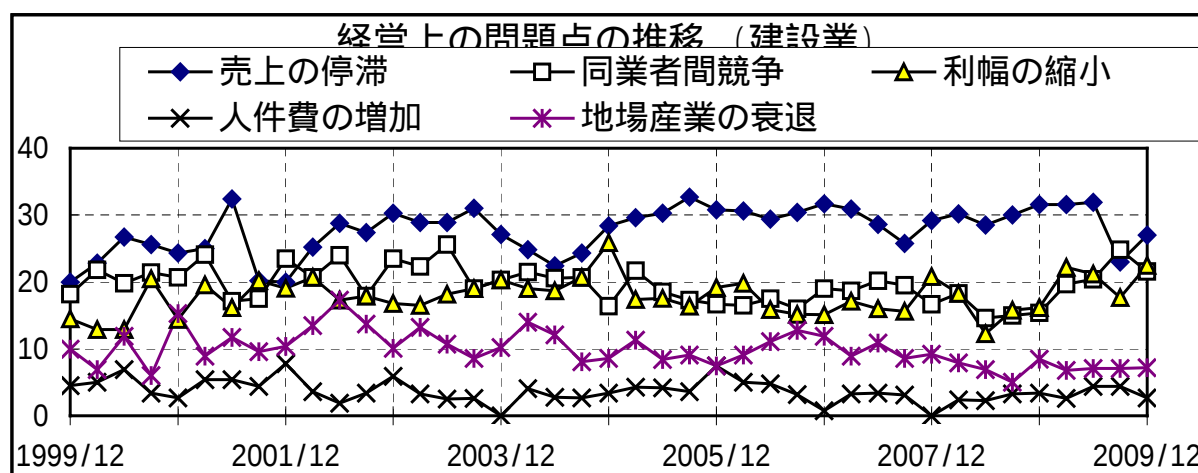
設備投資の充足感を示すD I値は6.5と、前期(2.1)のマイナスからプラス値に転じ8.6ポイント上昇、過剰感が強まる一方、適正と回答した企業は84.7%と、前期(89.1%)から4.4ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は13.0%と、前期(23.9%)比10.9ポイント低下、件数で前期の11社に対し6社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の5社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ27.0%、次いで「利幅の縮小」22.5%、「同業者間との競合」21.6%、「地場産業の衰退」7.2%の順に続き、前期との比較では「売上の停滞」、「利幅の縮小」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、総合工事業が「売上の停滞」、「利幅の縮小」、職別工事業が「売上の停滞」、「同業者間との競合」、設備工事業が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ71.7%、次いで「販路を広げる」50.0%、「技術力を強化する」39.1%、「情報力の強化」30.4%の順となっている。業種別にみると、総合工事業、職別工事業、設備工事業ともに「経費の節減」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成22年1~3月期)の予想業況判断D I値は52.2と、今期(10.8)実績比41.4ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I値は、今期実績比売上額が41.3(今期21.8)、収益が43.5(今期2.2)と、それぞれプラスからマイナス値に転じ63.1、45.7ポイントの低下見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D I値は、今期実績比請負価格が17.4(今期4.2)と、マイナス値が拡大し13.2ポイント低下、価格低下基調が強まる一方、仕入価格は8.7(今期23.9)と、プラス値が縮小し15.2ポイント低下、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

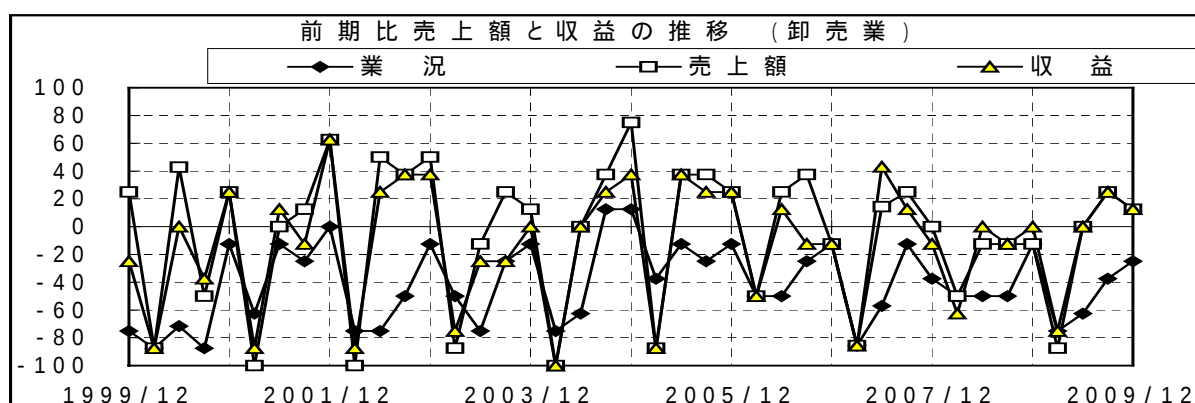
卸 売 業 8 企 業 (回 答 率 100.0%) の 調 査 結 果 で す

□ 景 況

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
業 況	-62.5	-37.5	-25.0	-50.0
売上額	0.0	25.0	12.5	-62.5
収益	0.0	25.0	12.5	-62.5

今期の業況判断DI値は 25.0 と、前期比マイナス値が12.5ポイント縮小、3期連続の改善となった。地区別にみると、様似地区が改善し、浦河、静内、三石地区で横ばいとなっている。

売上額、収益判断DI値は、前期比売上額が12.5、収益が12.5と、それぞれプラス値が縮小し12.5、12.5ポイント低下した。

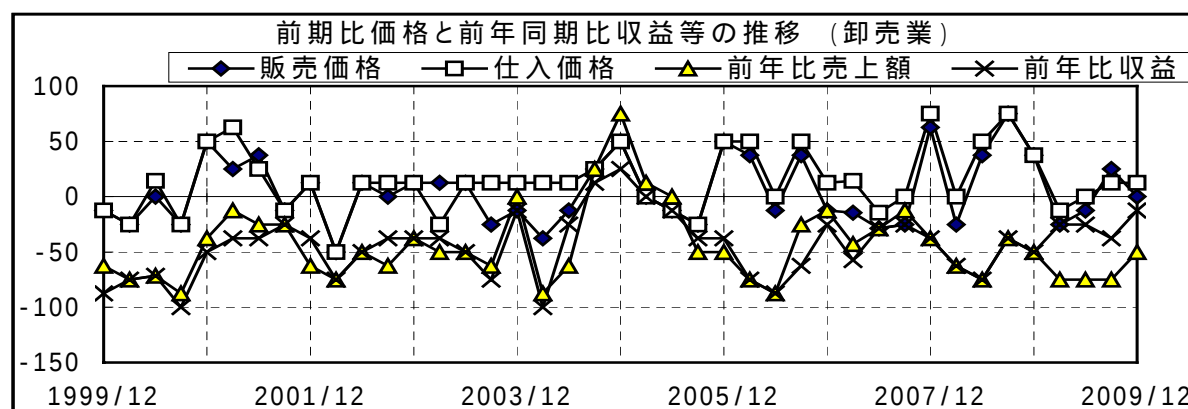


□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
販売価格	-12.5	25.0	0.0	-62.5
仕入価格	0.0	12.5	12.5	-50.0

販売価格判断DI値(0.0)は、前期比価格上昇基調を弱めプラスからゼロ値に転じ25.0ポイント低下した。一方、仕入価格判断DI値(12.5)は、前期比横ばいの価格上昇基調となっている。業種別にみると、農林・水産、食品が販売価格で低下し、

仕入価格で横ばいとなっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期見通し
残業時間	0.0	12.5	12.5	-37.5
人手状況	12.5	-12.5	-12.5	25.0

残業時間判断DI値は12.5と、前期比残業時間が増加したとする企業割合が横ばいとなった。

人手過不足判断DI値は 12.5 と、前期比横ばいの人手不足感となっている。

□ 設備投資の動き

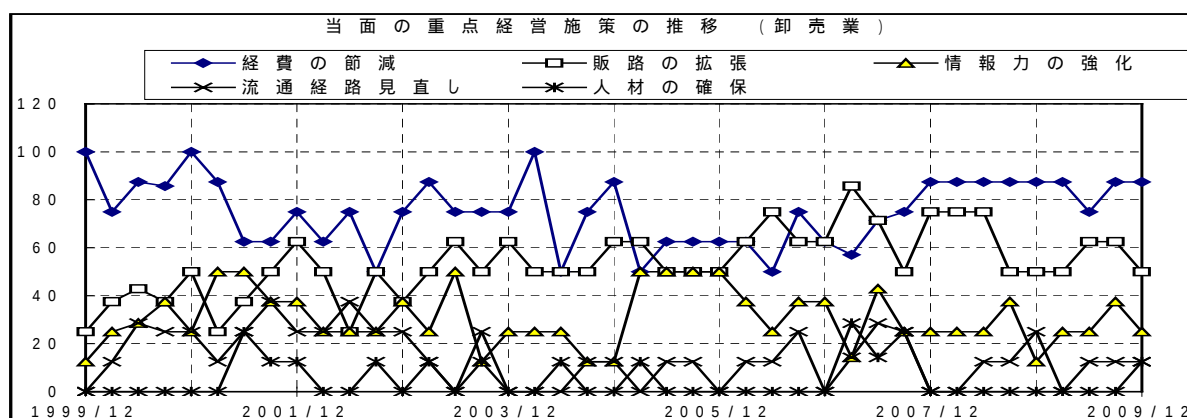
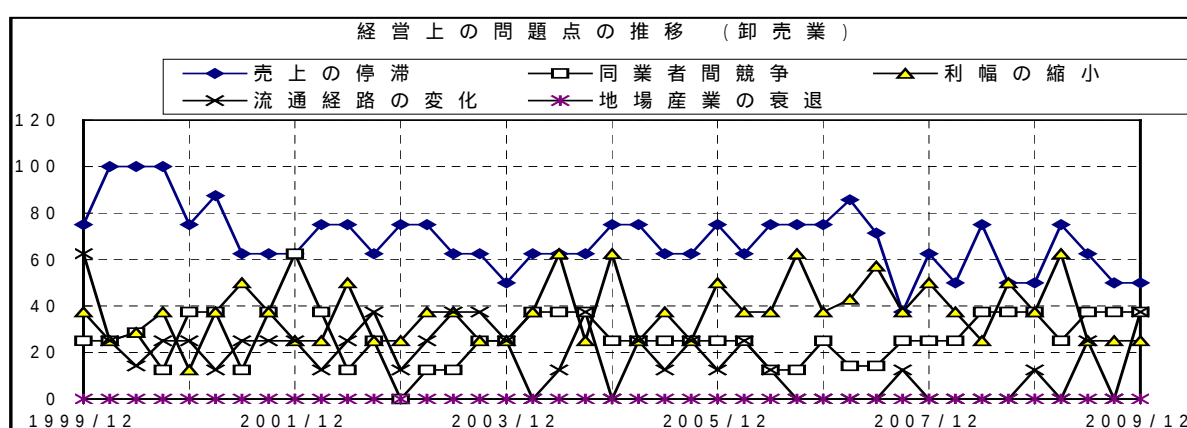
設備投資の充足感を示すD I 値は0.0と、前期(12.5)のマイナスからゼロ値に転じ、適正と回答した企業割合(前期 87.5%)が100%となった。

設備投資実施企業割合は25.0%と、前期(25.0%)比横ばい、件数で2社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」、「取引先の減少」をトップに挙げ50.0%、次いで「同業者間との競合」、「流通経路変化競合」37.5%の順に続き、前期との比較では「流通経路変化競合」と回答する企業が多くなっている。業種別にみると、農産・水産が「売上の停滞」、「同業者間との競合」、「流通経路変化競合」、食品が「売上の停滞」をトップに挙げている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」50.0%、「情報力の強化」25.0%の順となっている。業種別にみると、農産・水産が「経費の節減」、食品が「経費の節減」、「販路を広げる」をトップに挙げている。



□ 来期の見通し

来期(平成22年1~3月期)の予想業況判断D I 値は 50.0と、今期(25.0)実績比25.0ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D I 値は、今期実績比売上額が 62.5(今期 12.5)、収益が 62.5(今期 12.5)と、それぞれプラスからマイナス値に転じ75.0、75.0ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D I 値は、今期実績比販売価格が 62.5(今期 0.0)と、ゼロからマイナス値に転じ、仕入価格が 50.0(今期 12.5)と、プラスからマイナス値に転じ、それぞれ62.5、62.5ポイント低下、価格低下基調が強まる見通しとなっている。